

NO!リニア

No. 11

2009年11月 6日

JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

水源枯渇、生態系破壊、廃土処理、発電所建設… 環境破壊を引き起こすリニア建設!?

会社は、「1座席当たりのCO₂の量は、航空機と比較すると新幹線は約10分の1、リニアは約3分の1。『京都議定書』の基準をクリアするためには高速鉄道は有効」とリニアの優位性について主張しています。果たしてリニアは、地球環境面で優位性があるのでしょうか？

水源枯渇

2009年6月、笛吹市では山梨リニア実験線のトンネル工事が原因で、簡易水道の水源が枯渇してしまいました。南アルプスをトンネルで貫くルートが現実味を帯びてきていますが、地下水など自然環境へ及ぼす影響はどれぐらいになるのでしょうか？

生態系破壊

「リニア・市民ネット山梨」代表の川村慶応義塾大教授は「南アルプスにトンネルを掘れば水源の枯渇などの影響が出るのは明らか。住民だけでなく生態系に深刻な影響を与える」と懸念しています。自然破壊は発生しないという保障はありません。

廃土処理

トンネル掘削時には大量の廃土が発生します。アルプスのトンネルの廃土だけでも、入口の大鹿村を飲み込むだけの量があるとされています。廃土処理はどのような計画でしょうか。

発電所建設

リニアの電力消費は現行新幹線の3～5倍、原発の2基分（約200万キロワット）相当といわれています。しかも、リニアの輸送量を増やすとなれば電力消費量は莫大になります。会社は、多大な電力を何処から供給しようとしているのでしょうか。水力、火力、原子力いずれかの発電所を建設または増設する以外、電力の確保は困難です。発電所建設（増設）だけでも大きな環境破壊、地球温暖化になるのです。

会社は、このような環境問題についても、見解を一切明らかにしていません。会社は、リニアに関する情報を全て明らかにすべきです。

JR東海のエゴのために、
環境破壊は許されない!